

説教余滴、コイナー・ギリシャ語、2017年10月、

グーテンベルクの印刷術は、宗教改革の進展に大変有効でした。神の御計画があったのでしょう。

コイナー・ギリシャ語は、聖書が書かれた言語です。

「言語は空間と時間により変わる存在である」。これは、ダンテの言葉です。

ギリシャ語は、多くの国語同様、時代や民族によって幾種類かに分けられます。大きく三分されます。古典、共通(コイナー)、現代のギリシャ語。これとは別に、地域による分け方もあります。

紀元前5世紀頃までは散文の中心がイオニア地方であったため、イオニア方言が主に用いられています(ヘーロドトスなど)。しかし、前5世紀後半からはアテーナイに、優れた弁論家・文筆家(プラトーン、トゥーキューディデースなど)が多く現れ、さらに政治的にもアテーナイがギリシアの中心となったため、前4世紀頃にはアッティカ方言がギリシア世界の標準語となりました。この頃用いられていたアテーナイの言語を指して「古典ギリシア語」と呼びます。

日本語では「古典ギリシア語」という名称が広く知られていますが、これは「古代ギリシア語」と同一の概念ではありません。古典ギリシア語は、古代ギリシアの諸方言の中で最も代表的なものとなった古典期のアッティカ方言を指す呼称です。

アレキサンダー大王は、東西文化、全人類の融合・統一を旗印に東征を始めました(紀元前332年~323年)。遠征途上、多くの民族・部族に呼びかけ遠征軍への参加、結婚、定住、同一言語の使用などを進めました。こうしてコイナー・ギリシャ語は、行政・軍事・商業等、広く用いられ、国境を越えて一つの、同じ言語が用いられました。

新約聖書の時代、イエス・キリストの時代、そして、教会の初期の時代は、コイナー・ギリシャ語の時代です。そのため、キリストの福音をコイナー世界に広めやすかった。神の偉大なご計画を示されます。